

広島市食検だより

2015年8月 第19号

畜魂塔を知っていますか？

広島市食肉市場の敷地内には、畜魂塔という慰霊碑が建てられています。大正10年に、旧と畜場に建碑され、現在の場所にと畜場が新築移転したのと同時に、慰霊碑も移設されました

【参考文献】大丸秀士；広島県獣医学会雑誌 No.29(2014)

広島市食肉市場では毎年3月と8月に慰霊祭を開催しています。今年も8月13日にお盆畜魂供養が執り行われる予定です。（※広島食肉市場株式会社・広島食肉卸事業協同組合の共催）



命を「いただく」ということ

私たち人間が生きるためには、野菜や果物、魚、牛や豚など多くの生き物を食べる必要があります。全国の畜産農家さんに、大切に育てられた牛や豚などが、お肉になるために広島市食肉市場に集められます。



「食べる」とは「命をいただく」ということです。動物たちから命を受け取った私達は、牛や豚が生きてきた「命」、これからもっと生きるはずだった「命」、さらには、動物たちが食べてきた小さな生物や植物の「命」の分までも、大切に生きていかなければなりません。

「いただきます」という言葉の意味は、「命をいただきます」ということで、私達は動物たちから受け取った「命」を、次へと繋いでいかなければならないのです。

平成26年度より、お肉が食卓に並ぶまでの過程を学び、命の重みを親子で考える場を提供することを目的として、小学校5、6年生とその保護者を対象とした夏休み親子体験教室「お肉について考えよう！」を開催しています。（詳しくは食検だより第9号に掲載しています。）

教室では、導入として農場での豚の誕生から成長、出荷、とさつ、解体を経て食卓に届くまでを紹介した小学生向けのDVD（長野県食肉衛生検査所提供）を上映しています。参加者からは「大変ショッキングであったが、強く印象に残った。」「『いただきます』の意味を、親子でもう一度考える良いきっかけとなった。」といった声が聞かれました。今年度の教室の様子については、次号で詳しくご紹介します。

